

2022



助けあい 支えあいで 縁結び あいあいねっと通信

1月

新年、あけましておめでとうございます。本年も皆様が御健勝で御多幸でありますよう、心からお祈り申し上げます。

昨年は、6月から新型コロナウイルス感染症の第5波がおこり、過去最多の感染者数を記録しました。その後、感染者数は減少したものの、経済的にも精神的にも深刻なダメージが今も続いています。

あいあいねっとでは、2020年4月末より、個人の方への食料提供を開始し、これまでに、累計286件の食料支援を行っています。当初は、職を失ったシングルマザー、アルバイトがなくなった学生を中心でしたが、最近では、もともと生活が苦しいところにコロナ禍となり、生活保護ぎりぎりで生活している方や病気で働くことができず、食品の受け取りもままならない方など、深刻な貧困状況からの依頼が増えています。

一方で、あいあいねっとの活動に協力を申し出てくださる企業・団体は増えています。2021年の食品取扱量は、前年度を上回って、50.6tとなり、これまで以上に、食品の保管場所や人手を要するようになりました。「休眠預金活用助成金」より、大型冷凍冷蔵庫、米専用



運搬用トラック

保冷庫、トラック、倉庫などをいただき、地域のボランティアさんに支えていただ

きながら、対象者に寄り添ったフードバンク活動に取り組んできました。



また、広島県内で活動するフードバンク団体のネットワークづくりを目的として「広島フードバンクネットワーク」を立ち上げました。情報交換や活動に関する協議を行い、地方で活動するフードバンク団体として、地域の抱える問題を解決する一助となれるよう、広島県内で協力して参りたいと思います。

昨年の秋に3度にわたって開催した「フードバンクのいろは会」では、学生やフードバンクの当事者など多くの方が参加ください、活発に意見交換が行われました。困っている人を助けたい、食品ロスをなくしたいなど、参加者それぞれのフードバンクに懸ける思いが伝わり、心が温かくなりました。貧困や食品ロスなど取り組む課題はとても困難なのですが、それぞれの思いや力をつなぎ、多くの人に知らせ共有することで、明るい未来を作ることができると感じる会でした。

今年、みんな仲良く安心して暮らすことのできる地域社会の実現を目指し、活動に取り組んでいきたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

★日々の活動は、facebookで公開中

食べ物は食べるためにある！ “もったいない” のない社会を創る！



フードバンク活動

食品ロス削減活動

健康づくり活動・まちづくり活動

私たちは、食品関連企業から、規格外・包装破損・印字不良などの理由で、食べ物としては品質にまったく問題がないにもかかわらず、商品として扱えなくなった食品（食品ロス）を無償提供していただき、それを食べることに困っている人々のもとに届けるとともに、地域の活性化に活かしています。

【編集・発行】

社会福祉法人 正仁会 あいあいねっと

■住所：広島市安佐北区可部3-9-21
■TEL：082-819-3023
■FAX：082-815-6666
■Email：aiainet@nagominato.jp
■web：http://www.aiainet.org/



社会福祉法人 正仁会



フードバンク活動を始めて

社会福祉法人正仁会 フードバンク事業 あいあいねっと代表 原田佳子

フードバンク活動を始めて、15年目になりました。この間、社会の様々なことを学ぶことができました。昨今は、SDGs（持続可能な開発目標）に、社会の関心が集まっています。あいあいねっともSDGsの中の活動に軸足を置きつつ活動を展開しています。以下、活動で私が学んだことの現時点での到達点をご紹介いたします。

「貧困格差拡大、食品ロス、これらの問題の根本は同じです。しかし、その根本を知らず表面的なことしか見ていない人が実際に多いように思われます。なぜ貧困格差は拡大するのか、なぜこんなに食品ロスが出るのか、そこをしっかり考えていくことが大切です。表面だけなぞっていくのはSDGs wash（やってるふりSDGs）になってしまいます。危険があります。食品ロスの発生は資本主義市場経済の産物だと認識が必要と考えています。資本主義が悪いとかいいとか言っているのではありません。資本主義は競争であり、当然の帰結として、食品ロスや貧困格差拡大を産むということです。」

「フードバンク活動も生活困窮者に食品ロスを分配し、食品ロスの削減に結びつけることを活動の主目的にして活動を広げるだけでは、いつまでたっても課題は解決しません。フードバンク活動を実際に行っている私たちは食品ロスの実態がよくわかります。その実態を地域社会に知らせ、食品ロス削減の情報発信基地になること、そして食品ロスがなくなるような社会の仕組みを作っていく上でフードバンクがその要になること。フードバンク活動で地域のつながりが強くなる、それこそがフードバンクの役割と確信しています。」

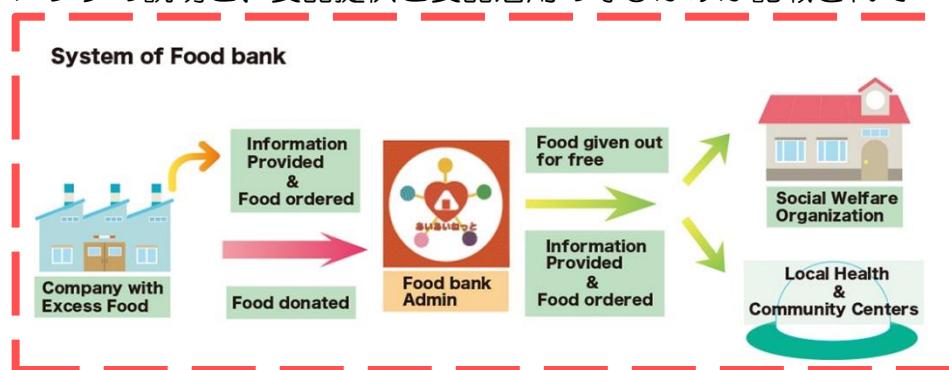
あいあいねっとは、今年も、「みんな仲良く安心して暮らすことのできる地域社会の実現」を目指します。

お知らせ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

ホームページに英語のページを作成しました！！

この度、あいあいねっとのホームページに、フードバンクを呼びかける英語のページを作成しました。コロナ禍を受け、昨年の4月末より個人支援を開始し、約290件もの支援を求める連絡をいただいています。あいあいねっとを知ったきっかけは、知人や支援団体からの紹介などもありますが、インターネットで検索をしてHPやFacebookを見て連絡される方も少なくありません。ただ、日本人の方ばかりで、外国人の方からの連絡は、来たことがありません。食品を活用しているパートナー団体からは、日本に住んでいる外国人労働者も食品を必要としている方がたくさんおられると聞いており、HPにフードバンク活動を紹介するページを作成することにしました。あいあいねっとの活動にボランティアでかかわってくださっている「可部ボウル（ボウリング場）」の加川さんに、全面的に協力いただき、作成に取り組みました。英語のページには、フードバンクの説明と、食品提供と食品活用の呼びかけが記載されています。見知らぬ土地で困っているいらっしゃる方やフードバンク活動に関心のある外国人の方の目に留まれば、うれしいです。トップページの最新情報にも掲載していますので、ぜひ、ご覧ください！！

<https://aiainet.org/>





パートナーさんのご紹介

【マイクロンメモリジャパン合同会社】様は、社内で取り組んでおられる地域支援活動の一環で行ったフードドライブで集まった食品を、あいあいねっとに提供してくださっています。多くの社員の方が取り組みに参加されており、たくさんの食品をきれいに梱包して届けてくださいます。届いた食品は、コロナ支援（個人支援）を中心に活用しております。ありがとうございます！

『マイクロンでのフードドライブに関する取り組み』

マイクロンメモリジャパン合同会社 鈴木友里加

マイクロンでは、企業文化の一つとして「人を思いやる」というものがあります。これは社員同士がお互いのことを尊重し、助け合うことでチームとして大きな成果を達成しようというものです。

この「人を思いやる」「助け合う」ということは、社員同士だけでなく、地域社会の方、世界各国の方に対しても同じように行なうこともこの企业文化の考え方にも含まれています。このような理念のもと、様々なボランティア活動を行っています。

その中でも、フードドライブなどの食料不安への対処、人間の基本的ニーズへの対処は、人々が新型コロナウイルスによるパンデミックのような危機に耐える力、それが過ぎ去った後の回復力に影響を与えるものだと考え、日本の拠点だけでなく、マイクロン全体で支援を行っています。また、あいあいねっと様を通じて、現実の身近な問題として、こういった支援がいかに重要で、かつ意義のあることだと改めて認識できたことも、社内でフードドライブを進めることの原動力となりました。

フードドライブは社内で定期的に行われており、2021年夏に行われた際には、600名以上の社員が協力して下さり、大きな段ボール40箱分の寄付を集めることができました。

また、社員が気軽にボランティアに参加できるような形でも支援を行っており、11月に開催された「歩いてお米寄付しよう」というイベントでは、社員が歩いた歩数に応じてお米を寄付するという内容で、2000人以上の社員が参加し、合計歩数3億7千万歩、寄付予定のお米は、500キロになりました。

フードドライブに関して、社員からは「貰ったけれど食べきれないものを寄付した。会社でフードドライブが行われなかつたら、捨てていたと思うので、そういう食品で人助けができるのが良いと思った。」「身近な広島県内にもコロナで職を失い、食べるものにも困っている人がいるということに気づくきっかけになった。」という声が上がっていました。

フードドライブという活動は、単に困窮者支援というだけでなく、食品ロス、コロナ禍での失業問題等、社会問題に目を向けるきっかけにもなる活動だと思います。

マイクロンでは、今後もこの活動を通じて、地域社会に貢献していきたいと考えています。



社内フードドライブの様子



食品は、食品の種類、賞味期限ごとに整理されて、あいあいねっとに届きました！お心遣いありがとうございます！！



『時代の潮流を理解し、リテラシーを高める』

社会福祉法人 正仁会 業務執行理事 松林克典

新年明けましておめでとうございます。2021年は、“あいあいねっと”の活動にたくさんのご協力をいただきましたことを、本紙面を借りて深謝いたします。

慌ただしい2021年が、2年目のコロナ禍における日々の感染対策とともにあっと言う間に過ぎ去り、いよいよ2022年がスタートしました。現在、広島県内の感染動向は落ち着いていますが、穏やかに迎える新年とは言い難い気もします。日本以外では新型（オミクロン）株によって日に何万人もの人が新型コロナウイルスに感染しています。ちらりほらりと日本にも入っており、この流れが県内にも波及する嵐の前の静けさと認識しているのは、私だけではないと思います。しかし、ワクチンの3回目（ブースター）接種や治療薬承認等の知らせも入っており、このまま終息してほしいと期待する気持ちも上向きます。

さて、世の中の変化は目覚ましく、昨夏の本紙面では、全世界が2030年までに目指す17の目標であるSDGsを話題に取り上げました。地球温暖化の原因の一つである二酸化炭素の削減は、脱炭素社会の実現として世界中の目標となりました。急速に進む化石燃料廃止の波は、あらゆる動力源であるエンジンの存在を脅かしています。日本産業の大きなウエイトを占める自動車業界は生き残りをかけて脱炭素に向かって必死ですが、世界的には出遅れ感は否めず、今後、大きなイノベーションに期待したいところです。技術革新といえば、最近話題になる横文字でDX（Digital Transformation；デジタルトランスフォーメーション（デジタル変革））も頻繁に耳にするようになりました。経済産業省は、DXを「企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること」と定義しています。つまり、情報社会の中でデータやデジタル技術を駆使してビジネス変革をもたらすことを意味します。例えば、マイナンバーカードによる情報管理やスマートホン位置情報、デジタル金融資産動向、インターネット検索情報など大量デジタルデータを処理して効率よく金融システムや商取引、記録管理システムにつなげます。「私はPC（パソコン）が使えません」「スマホは難しい」「機械は一切ダメです」など、新しいものを敬遠したい気持ちは痛いほど分かりますが、現代は私たち国民のリテラシー（理解・解釈・分析・記述・表現等能力）向上を目指さなければならない時代になつたと認識した方がよさそうです。すでに世界的には国民的リテラシーも近隣アジア諸国に引けを取つている状態だからです。「横文字はダメです」「二酸化炭素は私には関係ない」「車はエンジンに限る」、おまけに「投票しても変わらない」など言つていられない世の中になりました。私たちは、このようなリテラシーを高めながら社会のニーズを踏まえ、地域の紡ぎ役として、もったいない食材の撲滅に向けて今年も引き続き活動を続けて参ります。これからも応援をよろしくお願ひいたします。

私たちの活動をご支援いただいている事業者様・団体様をご紹介します

- ◆旭食品株式会社広島支店◆有限会社アトラス・コーポレーション◆アルフレッサファーマ株式会社
- ◆アヲハタ株式会社◆株式会社イズミ◆イズミ・フード・サービス株式会社◆株式会社エコールドフルール
- ◆江崎グリコ株式会社◆株式会社SKYコーポレーション◆株式会社エムズホーム◆株式会社M&K
- ◆株式会社M&Cコラボレイション◆おおたけ株式会社◆株式会社沖野建築設計◆有限会社オフィスイン
- ◆キユーピー株式会社広島支店◆医療法人社団恵正会◆有限会社健康宅配ネット◆カルビー株式会社
- ◆有限会社山菜木村◆ジャパンフード株式会社◆スタートライト工業株式会社◆生活協同組合ひろしま
- ◆田邊農園株式会社◆ダイキヨーニシカワ株式会社◆ダイハツ広島販売株式会社◆株式会社ダイヤス食品
- ◆チチヤス株式会社◆中国電力株式会社◆中電環境テクノス株式会社◆戸田建設株式会社
- ◆株式会社トーホーフードサービス◆株式会社ナリコマエンタープライズ◆有限会社ニシオカ
- ◆広島アグリフードサービス株式会社◆広島駅弁当株式会社◆広島ガス株式会社
- ◆公益財団法人広島市農林水産振興センター◆広島総合警備保障株式会社◆広島海苔株式会社
- ◆広島森永乳業株式会社◆株式会社フォーリーフ◆藤井医療器株式会社◆株式会社藤三◆株式会社vegeta
- ◆マルコメ株式会社◆マルサンアイ株式会社◆マックスバリュ西日本株式会社◆株式会社マルバヤシ
- ◆ミック株式会社◆株式会社ミライト◆明治安田生命保険相互会社◆山崎製パン株式会社広島工場
- ◆ゆかり屋本舗株式会社◆株式会社ユキ・コーポレーションラ・パン

みなさま、いつもありがとうございます！